

■第5回西京結び 実施報告

第4回までの西京結びで立ち上がったプロジェクトの実現に向けて、今回も熱い話し合いが繰り広げられました。今回の西京結びでは、事業者の立場からまちづくりに関わっておられる「ぴあぴあコミュニティサポート合同会社」の藤崎壮滋さんにお越しいただき、活動を具体化させるノウハウについて御紹介いただきました。藤崎さんからのお話を大きなヒントとしながら、各プロジェクトの来年度に向けたロードマップの作成や、プロジェクト同士のコラボレーションについて具体的に話し合いました。

今年度最後の西京結びだによん。来年度もよろしくによん!



今回話し合ったプロジェクト以外にも、防災に関するイベント「イザ!カエルキャラバン!」や、プレイパークの運営をサポートするための「キャンドルナイトピクニック」の企画が進められています。

様々な取組をしている事業者の方のお話を聞く 「活動を具体化させるノウハウについて」 (ぴあぴあコミュニティサポート合同会社 代表社員 藤崎 壮滋さん)

■会社の自己紹介

伏見の寺田屋浜で拠点を開いて活動しています。伏見は、古くは人や物の流れの拠点となっていたまちです。また、桃山一帯は桃の産地としても栄えていた歴史があります。

その伏見のまちにおいて、会社としては「伏見を日本一歩いて楽しいまちにする」を活動テーマとしています。

■具体的な取組の紹介

様々なプロジェクトに取り組んでいますので、どんなことをやっているのか紹介します。

【地域に溶け込むきっかけとなる「音楽」】

商店街での路上音楽ステージを仕掛けています。商店街に行けばギャラリーのように何かがあるというイメージで、地域に溶け込めるような仕掛けをしています。このような音楽活動は結構喜ばれ、商店街の理事長さんとも音楽を通じてつながりが強くなりました。

【民間の力で活性化】

行政は洛中優先で観光面の発信を行っていますので、周辺区は民間で頑張らなければとの思いから、伏見に来てくれる観光客向けにランチマップの作成をしました。また、桃のスイーツを食べ歩くスタンプラリーイベントを仕掛けたところ、和菓子屋さんなど30店舗が参加しました。

【Win-Winの関係をつなぐことで町を元気に】

かつては伏見の台所と呼ばれていた納屋町商店街だが、八百屋も肉屋もなくなってしまいました。農家の直売であれば商売が成り立つのではということで調べると、「農家さんは通常出荷できない形の悪いモノなどを出品したい」「商店街は生鮮品を売りたい」ということで、Win-Winの(双方にメリットのある)関係ができることから朝市が実現しました。

【その他いろいろ】

そのほかにも、桃山音楽隊という副業的にやっている音楽活動や、和菓子作り体験、桃の木の植樹活動、着物文化の体験、最近では洛西でのイベントもお手伝いしています。

【新と旧をつなぐ役割】

もともと地域に住んでいる人はネットワークや役割を持っているので、これらの取組に集まってくる人はあと入りの方が多い。そういう方に御神輿を担いでもらうなど、新と旧をつなぐ役割も担っています。



■具体的なノウハウについて

【Win-Winの関係を設計する

プロデュースできる組織体制】

やりたいことを実現するためのNPO的な団体(法人でなくても)が、テーマ毎に複数あって、会社はその活動の裏方を引き受けたり、良いコンテンツとするためのプロデュースをしたりしています。

自己実現だけのイベントであれば、いつでもできますが、続けていったり、お金をもらったりしようとする、お客様に求められるものとするのが重要です。

例えば、商店街での音楽会であれば、歩行者の人が楽しく、お店の売上げにもつながり、出演者も満足し、商店街が賑わえば土地の所有者も喜び、それに関わる行政担当者もやりやすいなど、それぞれの満足がないと続かない。Win-Winの関係が8つくらい並ぶように全体の設計図を描くことが大切です。

【SNSやマスコミなども活用した情報発信】

情報発信のノウハウとしては、Facebookのイベントページは効率よく発信できるツールで、有料広告のサービスを使うとより効果的です。

また、京都新聞のまちかど欄への掲載もよく使います。京都府の地域カマーリングリスト(ML)も無料で利用できるのも、情報の拡散が期待でき、新聞社の方がそのMLから記事にしてくれることもあります。

【資金源について】

京都府や京都市各区の補助金は活用できますが、人件費は基本的に出ないことは注意が必要です。

行政や商店街からの受託や技術力で稼ぐことができるようになることにより良いですが、クオリティが求められることになってきます。

■成功するプロジェクトの共通点

- 活動の内容が地域課題を解決する方向であることが大切です。
- たくさんの方が主体的に関与できる「Win-Win-Win…」のデザインが上手にできていることが大切です。
- 依頼主やリーダーが、カリスマ性などではなくて嫌われにくい人であることが大切です。
- 成功の果実(収益や評価)が公平に参加者に分配されていることが大切です。新聞に写真が載る時も、誰か一人ということではなくみんなで載る方がいいですね。

各プロジェクトの実現に向けて ~来年度に向けたロードマップ

西京結び盛り上げプロジェクト

- 西京結びを持続的に継続していきたい。まず、必要とする人に情報を繋げていくことを考えている。持続的・効果的・合理的な情報の提供が必要。
- じっくりと準備して積み重ねたい。お互いに結び合い、絆を深め、ネットワークをつくっていく。
- 時期や場所は未定であるがお茶会の企画をしていきたい。昼の会や仕事をしている人のために夜の会も考えている。そういう場を通じて情報を自然な形で交換できるようにしていきたい。

「区民大家庭菜園」

- 大家庭菜園の実現に向けて、課題解決のため継続的に情報を収集し、検討を進めていくこととしたい。
- 西京結び盛り上げプロジェクトに情報・特技・地域が集まって来ると思うので、そこから様々なプロジェクトが発生していくと思う。
- まずは連絡・情報交換。そこからプロジェクト発生・活性化にも繋がるのでは。
- そのためのきっかけとして、西京結びのメンバーが集まって情報交換をしようという提案が生まれた。菜園プロジェクトとしては、メンバーの自宅など、場所の提案が可能である。

パトラン

- まちの中を走りながらパトロールする取組。第一に西京区でのPR、いろんな人に認知してもらうこと。西京区役所さんの協力も得て2月以降自治会でもPRしていきたい。
- 西京区のメンバーで実施していきたい。
- コラボレーション企画の際には「お結びパトラン」をしたいと思う。



ONGEKI

- 3月4日楽器づくり・紙芝居ワークショップ(WS)を実施。3~4月の間に他の場所でもWSを実施する。
- その後、興味を持つ子を集めて全体のWSを実施したい。場所は区役所を予定している。
- 音楽劇団に参加したい子を集めて練習をしていきたい。
- 西京区の歴史伝承として、子ども達もわかりやすく「竹取物語」を題材にして、劇と音楽をつなげて一つの作品に。来年の2~3月にできたらいい。
- スモールステップとしての発表会を「桂ヴィレッジフェス」などでできたらいいと思う。
- まずは音楽の発表会を行う。現在楽器などを使える子どもや、劇に興味ある子どもを絶賛募集中。



コラボレーション 企画の提案が ありました。



西京区長からの ご挨拶 来年度の西京結び に向けて

こんな意見が繋がってコラボレーション企画を実施することとなりました。

お弁当プロジェクトの試食会などで使える場所があればなあ

菜園プロジェクトメンバーの自宅「苔香居」や「檜原本陣」を使って西京結び全体で何か取り組めないかなあ

盛り上げプロジェクトのネットワークづくりのきっかけになる場があればなあ

「苔香居」で西京結びメンバーで集まって、「音楽」「食」「歴史」などを体感する情報交換イベントをやりましょう!



- 本日の西京結びを通して具体的なイベントの準備をするきっかけができました。西京区に関わる自治会や地域団体の「縦のつながり」と西京結びのような「横のつながり」が重要だと認識しました。来年度も引き続き、西京区として西京結び事業に取り組み、活動の具体化支援を継続的にやりたいと思います。
- 洛西ロー桂駅間の高架下をどのように活用するかも考えていきたいと思っています。駅の附属施設だけでなく、「京都市」と「阪急電鉄」が協力して「マルチスペース」を検討中。そのような場所も西京結びの活動を展開できるかもしれませんね。